

5/6（火・祝） 大阪長居第2陸上競技場

第1試合 同大 vs 阪南大

第6節終了時点で、同大が失点2、阪南大が失点3と守備が安定しており、僅差の勝負が予想されたが、まさにその通りの展開となる。

阪南大は、攻撃の中心FW⑩木原正和がベンチスタート。須佐徹太郎監督は「連戦なのでコンディションを考慮した。」として、木原の代わりにFW⑨吉田幸一をスタメンに抜擢。これが的中する。6分、吉田がスピードで同大DF陣を振り切り、GKの脇を冷静に抜いて先制点を奪う。

まだ時間は多く残されており、同大に焦りはなく、いつも通り細かいパスワークで攻めに転じたが、この日の阪南大の守りは鮮やかだった。

スリーラインが見事に敷かれて、整然と上下に連動する。スペースを消された同大はキープが出来ても崩し切れない。そこで、MF⑩楠神順平らの個人技が効力を発揮するはずが、阪南大はその対策も練っていた。試合前に、須佐監督は同大のキーマン数人の名前を挙げて抑えにかかる事を明言していた。阪南大は、同大の個人突破に対し、ゾーンのディフェンスを崩し、人を割いて素早く対応。

結局、同大は決定機を1つも作れず。これで両校は勝ち点15で並んだ。

（文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ）

同大 0 $\left\{ \begin{array}{l} 0-1 \\ 0-0 \end{array} \right\}$ 1 阪南大

得点（アシスト）者
6分 吉田（小寺）

第2試合 関西大 vs 桃山大

関西大 2 $\left\{ \begin{array}{l} 0-0 \\ 2-1 \end{array} \right\}$ 1 桃山大

得点（アシスト）者
62分 藤澤（前川）
71分 宇佐美（佐藤）

得点（アシスト）者
82分 武田（辻）

初黒星を喫しこの試合を向かえる関西大と、不振から一転して大勝を収め気分良く臨む桃山大。互いにシーズンの流れを大切にする上で、勝ち点3が欲しい一戦。

前半、桃山大は左サイドから攻略を試みる。3人以上の選手が絡み、手数を掛けてコンビネーションで打破する攻撃には関西大も手を焼いていたが、ゴールは許さなかった。

対する関西大は、この日90分間冴えを見せ続けたMF 24 藤澤典隆が司令塔として君臨。試合後、「実は体調不良が続いている。」と明かした藤澤だったが、ピッチ上では、パス・ドリブル・シュートの全てが高次元で、桃山大の守りを翻弄した。後半17分の先制点も、鮮やかなシュートフェイントでDFを抜いて蹴りこんだ。

関西大は後半26分にも、カウンター攻撃から交代出場のDF③宇佐美宏和が追加点をゲット。桃山大の必死の反撃に1点を返されたものの、後半は柔軟にシステムを変更し戦術の幅の広さも見せ付け、磐石の試合展開で勝利をモノにした。

（文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ）

5/6（火・祝） 神戸総合運動公園ユニバー記念競技場

第1試合 姫獨大 vs 立命大

3連敗中の11位 姫獨大と、連敗は避けたい9位 立命大。1部昇格チーム同士の対戦は、前半から立命大が持ち前の丁寧な「つなぐ」サッカーで姫獨大を押し込む。攻撃の中心は⑩山口卓也。高い技術と広い視野を活かしてFWにチャンスを生み出していく。対してカウンターに活路を見出したい姫獨大だが、ミスのためなかなかシュートで終われない。31分、立命大は山口のシュートがブロックされるところをFW 33 佐原啓泰が強烈な一発を見舞うが、姫獨大GK①家木大輔がファインセーブ。逆に35分、姫獨大のゴールエリアからのシュート連発も、立命大DFが必死にはね返し、0-0で折り返した。

試合が動いたのは後半開始直後。立命大、山口がDFをひきつけてラストパス。FW⑦宮尾勇輝がGK家木の足元を抜き先制した。反撃に出た姫獨大は、同点ゴールと思いきやオフサイドの判定。そしてここまで2点目が取れず苦しい試合が続いた立命大が待望の追加点を奪ったのは後半21分、宮尾に対するファウルで得たPKを山口が決めた。立命大、米田監督は「（守備ラインが）間延びする時間帯があった」と満足ではなかったようだが、DF陣がなんとか踏ん張り無失点勝利でGW4連戦を終えた。

（文：サッカーライター 貞永 晃二）

姫獨大 0 $\left\{ \begin{array}{l} 0-0 \\ 0-2 \end{array} \right\}$ 2 立命大

得点（アシスト）者
46分 宮尾（山口）
66分 山口

第2試合 関学大 vs 京産大

関学大 1 $\left\{ \begin{array}{l} 0-1 \\ 1-0 \end{array} \right\}$ 1 京産大

得点（アシスト）者
86分 桑原（阿部）

得点（アシスト）者
12分 市川（金本）

計17失点での3連敗、特に前節の屈辱的大敗（1-8桃山大）を払拭すべく、京産大はいきなりトップギア発進を見せる。一方、「（前2節同様）立ち上がりの入り方を失敗してしまった（成山一郎ヘッドコーチ）」という関学大。勢いの差はそのまま12分の京産大MF⑥市川恭平の先制ミドルにつながった。さらに畳み掛ける京産大だが、さすがに関学大も簡単には追加点を許さず、じわじわ反撃に出る。しかしそのままスコアは動かず、勝負は後半へ。

しっかりと守備を立て直し、最短ルートでゴールを目指す関学大は後半、相手の2倍12本のシュートを浴びせるが、「みんな違う意識で攻めていて、噛み合わなかった（関学大MF 28 阿部浩之）」というように京産大の気迫の守備にはね返されてしまう。さらにターゲットマンとして復活しつつあったFW 32 村井匠が負傷し、27 桑原理介への交代を余儀なくされる関学大。万事休すかと思われた後半41分、阿部のCKをその桑原理介が起死回生の同点ヘッドを決めるのだからサッカーはわからない。ロスタイムに市川がレッドカードを受けた京産大がタイムアップ直前にチャンスをつかむが決められず、ともに痛みを伴い勝ち点1を分け合った。

（文：サッカーライター 貞永 晃二）

5/6（火・祝） 山城総合運動公園太陽が丘陸上競技場

第1試合 近畿大 vs 大教大

前期リーグも佳境に入り、未だ1勝と厳しい試合が続く大教大。守備の要・DF⑤大久保悟を欠き、大量失点に苦しんでいる。一方、近畿大は前節、大院大に競り勝ち、なんとしても連勝を狙いたいところだ。

試合は立ち上がりから「相手に合わせてしまった」（近畿大・MF⑦枝本雄一郎）と大教大に流れがいく。しかし、10分には「やらなくていい点」（大教大・入口豊監督）というPKを枝本がしっかり決め、この一点を守り前半を折り返す。

後半に入ると「守備をしっかりと、前からもプレスをかけて、普段通りできた」という枝本を中心にドリブルで攻撃を仕掛け、相手陣内に切り込んでいく。必死に止めたい大教大は、23分にMF②田代寛明がこの日2枚目のイエローで退場。リードを許す大教大に追い討ちをかける。一方近畿大はこれを契機に、後半27分に交代で入ったMF 23 池亮磨が右サイドからあげたボールを、ゴール前にフリーでいたFW⑬小笠原宏樹が決め2-0。さらに後半34分、42分と立て続けに追加点を決め、一人少ない大教大を圧倒し4-0で近畿大が快勝で試合は終わった。

大教大はこの敗戦により、3連敗。大量失点も不安材料だが、4試合ゴールから遠ざかっており、勝つためには決定力不足も心配される。一方4得点と完勝した近畿大は今期初の連勝で、波に乗れるか。

（文：フリーライター 久住 真穂）

近畿大 4 $\left\{ \begin{array}{l} 1-0 \\ 3-0 \end{array} \right\}$ 0 大教大

得点（アシスト）者

10分 枝本

72分 小笠原（池）

79分 平石（小笠原）

87分 中岡（枝本）

大院大 2 $\left\{ \begin{array}{l} 1-1 \\ 1-2 \end{array} \right\}$ 3 びわこ大

得点（アシスト）者

34分 佐藤（小野）

67分 吉井（佐藤）

得点（アシスト）者

39分 篠部（平野）

50分 小池（篠部）

53分 篠部（二戸）

びわこ大の勢いが止まらない。第2節京産大に大敗してからは、順調に連戦を勝ち続け、破竹の5連勝。ついに首位に立った。対する大院大は、先制しながらも3失点と逆転負け。あと1点——。追いつけない試合が続き、順位を2つ落とした。

試合は序盤、びわこ大は連戦の疲れが見えはじめ、大院大が試合の主導権を握る。DFラインの裏を狙う2トップの攻撃で相手を翻弄する。そして34分、FW 60 小野真国のパスをMF⑩佐伯直裕がGKを翻弄する鮮やかな先制弾を決める。しかし、ここでひるまないのが今のびわこ大。先制ゴールから5分後には右サイドからFW⑬平野甲斐が仕掛け、出したパスにFW 25 篠部拓真があわせ同点に追いついた。「チームの勝利のために、絶対決めようと狙っていた」（篠部）。前半終了間際の一点が試合の流れを大きく変える。

後半開始早々、平野のパスに篠部がポストで受け、MF⑦小池遼がダイレクトで豪快にシュート。これが決まり、びわこ大が逆転する。勢いそのままに、3分後には交代で入ったMF 30 二戸将と篠部の華麗なパスワークからペナルティエリアまで持ち込み、最後は篠部がゴールを押し込み3-1。大院大は後半22分にDF④吉井直人の得点で一点差まで迫るも、反撃はここのまで。昨年春季リーグを制したびわこ大が、負けない強さをみせた。

（文：フリーライター 久住 真穂）